

冬のアイスランドを旅する Winter journey in Iceland



季節限定の
絶景が
いっぱい!

Iceland

Reykjavík, Blue Lagoon,
Golden Circle, Ice Cave

レイキャヴィーク、ブルーラグーン、ゴールデンサークル、アイスケーブ

「アイスランド」。その名を聞くだけで「寒い国」と想像されるが、
実は冬のアイスランドは、高緯度のわりには気温が低くなりすぎず、比較的旅行しやすい。
地球規模の絶景オンパレードの国は、冬こそがベストシーズン!

アイスケーブ

アイスランドの東部にある面積8,100km²の氷河、
ヴァトナヨークトル氷河にある氷の洞窟。ガイド付
きのツアーでのみ行くことが許されており、催行は
冬の間だけ。

オーロラ

オーロラが現れるドーナツ状のエリア「オーロラオーバル」の真下にあるアイスランドでは、12月から3月にかけてオーロラツアーが盛ん。ほかの北極圏の国に比べ、気温がそれほど低くないのがうれしい。



vichie81/Shutterstock.com

ブルーラグーン

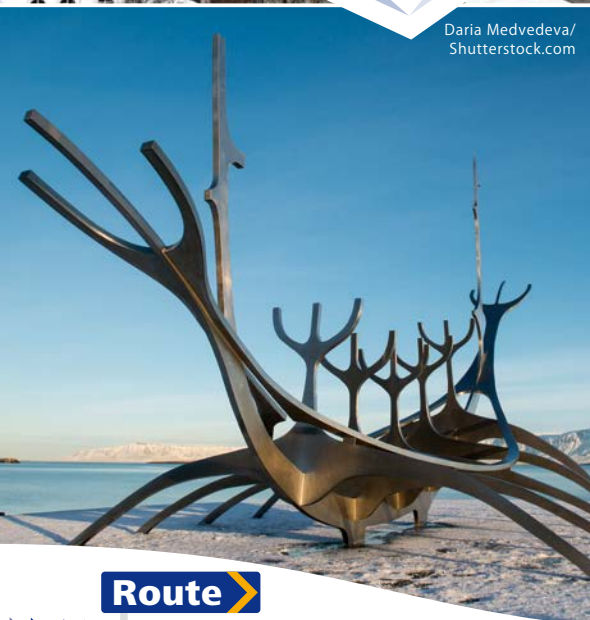
ターコイズブルーの温泉ブルーラグーンは、1年を通して入浴が可能。冬なら周囲の山々に雪がうすら積もって、夏よりもきれい。泥パックやトリートメントを体験できるスパもある。



rayints/Shutterstock.com

7泊9日 冬のアイスランド 旅日誌

7泊9日で訪れるアイスランドの旅をライブレポート。地球規模の大自然が連続する旅は、一生忘れられない思い出になる！宿泊はほとんどレイキャヴィークなので、移動も楽々。



Daria Medvedeva/
Shutterstock.com



f11photo/
Shutterstock.com



SasinTipchai/Shutterstock.com



dmitry_islentev/
Shutterstock.com

Route



DAY 01 → 03

レイキャヴィーク

街歩きや ホエール＆オーロラ ウオッチングに感激！

アイスランド最初の滞在は、首都のレイキャヴィーク。人口約12万人の街は首都とは思えないくらいごぞんまり。初日のアイスランド到着は、

たいてい夕方から夜。ディナーを食べたら、まずはホテルでのんびり。

2日目は、レイキャヴィークをぶらぶら。ロイガヴェーグルというメインストリートへ。レストランやカフェ、ショップが並ぶ道は、おさんぽにぴったり。途中には街のシンボルであるハットルグリムス教会に立ち寄って、塔に上り街を一望。首都だけに博物館など文化施設も多いので、1日たっぷり楽しめる。夜は、あらかじめ申し込んでおいたオーロラツアーで郊外へ。ツアーはオーロラが出現しやすいエリアに移動して行われるので、観測率がとても高いとか。もちろんぼっちり見ることができました！オーロラが出るのは夜なので、レイキャヴィークに戻ってきたのは深夜。すぐ

に寝て、翌日に備えよう。

3日目。午前中はホテルでゆっくりして、午後からレイキャヴィーク発のホエールウオッチングツアーに参加！強風吹きすさぶ海の上はかなり寒いけれど、無事にクジラの姿が拝めて大満足！アイスランド周辺でよく見られるのは、ミンククジラやザトウクジラ。水面から大きくジャンプする「ブリーチング」まで披露してくれたクジラに感謝。なお、船はかなり揺れるので、船酔いが心配な人は避けたほうが無難かも。夜にレイキャヴィークを歩いていると、街なかなかのオーロラが出現。街灯の多い街なかで見られるのはかなりレアな現象らしく、ラッキー☆



vichie81/Shutterstock.com

lenggirl/Shutterstock.com



狭い国土に見どころが満載!

総面積10万3,125km²と、北海道よりも少し広い程度のアイスランドだが、火山や温泉、滝、氷河など絶景ポイントがめじろ押し! どれもレイキャヴィークから1泊2日でも日帰りでも行けるので、旅程も立てやすい。



DAY

4 ブルーラグーン



DAY

5 ゴールデンサークル

Next 4DAYS

DAY

04 → 05

ブルーラグーン & ゴールデンサークル

雄大な自然の絶景に魂を震わす

4日目からはレイキャヴィークを離れ、郊外へ。旅のメインのひとつ、憧れのブルーラグーンでのリラックスタイム。氷点下の中に入る温泉は

格別! なお、ブルーラグーンは地熱発電所の熱水を利用した人工の温泉。こんなところもさすが「火山の国」と納得。そばで見る温泉のお湯は、青というよりは乳白色でなめらか。美容にいいという泥パックにも挑戦して、すっかりお肌もツルツルに! 周辺にはスパ施設もあるので、1日ゆっくりと滞在し、癒やしの時間を過ごしました。ちなみにブルーラグーンには宿泊施設もあり、「温泉に浸かりながらオーロラを観る」なんて最高の体験ができることもあるそう。

5日目は、アイスランドの大自然を満喫するゴールデンサークル・ツアーに参加。幅70m、落差32mのグトルフォスを見学したら、「ガイザー(間欠泉)」の語源となったゲイシールへ。到着し

たときは何もない風景だったところから、突如として熱湯が噴き上げられて思わず後ずさり。熱湯は5分から10分に1度ほどの頻度で噴出し、高さ20mにも達するとか。

アイスランドは、ユーラシアと北アメリカのふたつのプレートがぶつかる場所。プレートは今も広がっていて、そこから新しい大地が生まれているそう。プレートが引っ張り合うことで生まれる地球の割れ目のことをギャウといい、そのギャウがあるのがシンクヴェトリル国立公園。通常ギャウは地底にあるものだが、ここでは地表に出ていて、なんとそこを歩くことができる。ゴールデンサークル・ツアーのメインとなる見どころだ。



Bill45/Shutterstock.com



DAY

6・7 アイスケーブ

DAY

8 レイキャヴィーク → 日本

DAY

9 日本着

DAY

06 ▶▶ 08

アイスケーブ

氷に覆われた自然のアート

冬のアイスランド旅のラストは、アイスケーブへの小旅行。ツアーはレイキャヴィークからの1泊2日で行われ、初日(6日目)はアイスランド南部にあ

る滝などの見どころを回る。なお、この日の夜もオーロラ観賞のチャンスだ。

翌日(7日目)の朝に、アイスケーブのあるヴァトナヨークトル氷河へ。アイスケーブの入口は、氷に開いた小さな穴。この奥に巨大な空間が開けているとは、にわかには信じがたい。腰をかがめながら穴に入り先に進むと、突如視界が開け、神秘的な青い洞窟が姿を現す。氷は何万年も前の氷河期に形成されたため、不純物が含まれておらず透明。そのためクレバスから差し込むわずかな光を吸収し、青く光り輝くのだそう。

「スーパーブルー」と形容されるアイスケーブを堪能したら、一路レイキャヴィークへ戻る。街で1泊したら、翌日(8日目)に日本へ出発。

ジェネラルインフォ in アイスランド

時差：日本より9時間遅れ。サマータイムは実施していない。

ビザ：180日以内、合計90日までの滞在なら不要
通貨：アイスランド・クローナ(ISK)。

2017年10月現在、1kr=1.06円

物価：交通費や外食費など日本よりもかなり高い。だいたい1.5~3倍くらいする。

気候：近くを暖流が流れるため、高緯度のわりに暖かい。四季は分かれているが、冬が長い。観光は1年を通じて楽しめる。

詳細はPlat アイスランド編へ

発行：ダイヤモンド・ビッグ社
www.arukikata.co.jp/guidebook
本体：1,400円+税



◆火山の国

アイスランドは、国内に130もの火山があり、うち30が現在も活動を続けている。また島の近くを暖流が流れているため、高緯度のわりには温暖な気候となっている。火山口に入って観光できるところも(夏のみ)。

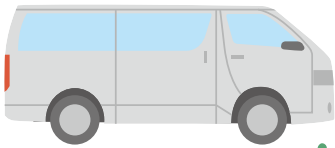
◆冬の服装について

カナダやフィンランドなど、同緯度にある国よりは温暖な気候だが、冬のアイスランドは非常に風が強い。ダウンを着た上からマウンテンパーカーを重ねるなど、防風対策を厳重に行こう。



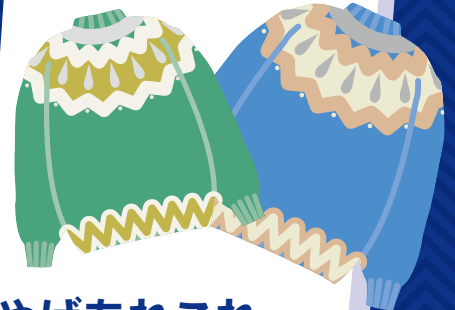
◆冬の移動手段

夏は大型のバスで行われるツアーがほとんどだが、冬は観光客が減るため小型のバンで行われる場合が多い。直前だと満席ということもあるので、予約は事前しておくこと。



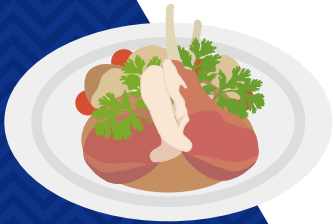
FACT ABOUT アイスランド

アイスランドは、ヨーロッパの北にある島国。日本ではまだまだ知名度の低い国なので、まずは予備知識を得ておきたい。冬ならではの準備から食べ物、おみやげまで、旅にきっと役立つ情報をさくっと紹介!



◆アイスランドの食事

名産は、ラムとロブスター。特にラムは、世界中に輸出されている最高級ブランド肉。アイスランドのロブスターはテナガエビ(アカザエビ)の仲間で、小さくて味が濃い。グリルで食べるのが主。



◆おみやげあれこれ

おみやげNo.1は、手織りのニット製品。島のウールを使ったものは、高額だが暖か。レイキャヴィークにはデザイナーズショップもあり、おしゃれなアイテムも増えてきている。

アイスランドのユースホステル

アイスランドのユースホステル一覧はこちら▶



Reykjavik Downtown

ADDRESS: Vesturgata 17, Reykjavik, 101, Iceland
TEL: +354-553-8120

E-Mail: reykjavikdowntown@hostel.is

ドミトリー: 約5,000円〜 個室(ツイン): 約13,000円〜

URL: <https://hihostels.com/ja/hostels/reykjavik-downtown?linkid=980028>



Reykjavik - Loft Hostel

ADDRESS: Bankastræti 7, 101, Reykjavik, Iceland
TEL: +354-553-8140

E-Mail: loft@hostel.is

ドミトリー: 約5,700円〜 個室(ツイン): 約16,000円〜

URL: <https://hihostels.com/ja/hostels/reykjavik-loft-hostel?linkid=980028>





つづきをダウンロード(無料)



HostellingMagazine vol.11
まとめてダウンロード



トリップアドバイザー Presents P18
耳寄り! 観光NAVI
アイスランドの自然&野生動物ツアー



インタビュー P02
アーティスト・ギタリスト/MIYAVI
ギターで世界中の人の心を躍らせた。



教えて! 旅GIRL P20



Youth Hostel Pick up P08
たぐさんの出逢い。高原からの贈り物
清里ユースホステル



松島むうの晴れときどき旅びより P21



Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12
冬のアイスランドを旅する
Winter journey in Iceland
アイスランド
■ 7泊9日 冬のアイスランド旅日誌
■ FACT ABOUT アイスランド



Event Information P22